

## 平成 29 年度 第 1 回生物多様性推進部会 議事録（発言要旨）

- 開催日時: 平成 29 年 7 月 27 日(木) 10:00～11:50
- 開催場所: 西宮市役所 東館 7 階 701 会議室
- 出席委員: 服部部会長、遠藤副部会長、佐山委員、大谷委員、小川委員、田邊委員
- アドバイザー: (株) 里と水辺研究所 主任研究員 田村氏
- 事務局:須藤環境総括室長

(公園緑地課)伊藤課長、高橋係長、木原副主査

(花と緑の課)岸本課長、船越係長

(環境・エネルギー推進課)山中課長

(環境学習都市推進課)藤原課長、田中係長、森園副主査、鷺尾主事

((株)地域計画建築研究所(アルパック))森野、駒

### 1. 開会の挨拶

- ・ 本年度は、西宮市の環境施策の基本計画となる新環境計画を見直す時期になっている。また、併せて生物多様性にしのみや戦略の見直し骨子案を作成する重要な年となっている。
- ・ 本日の会議におきましては、自然調査や広田山公園のモニタリング調査のご報告、御前浜公園の意見交換会の開催方針、生物多様性にしのみや戦略の見直し・検討方針について議論を進めていただきたい。(環境総括室長)

### 2. 出席者自己紹介

### 3. 役員選出

- ・ 事務局提案により、部会長には、兵庫県立大学名誉教授の服部委員に、副部会長には、神戸女学院教授の遠藤委員にご就任いただく。

### 4. 平成 29 年度自然調査について

- ・ ベルト調査とは、どういった調査なのか。(委員)  
→御前浜と甲子園浜で行っており、海岸線から防波堤に向かって、1m幅で調査を行う。海岸線からどのように植生が変化するのかを調査する。(アドバイザー)
- ・ シロヤシオに関して、実生も発見されているのか。(委員)  
→実生は無く、大きな木であった。実生に関しては、発見できなかった。
- ・ シロヤシオが発見されている場所を見ると、密集していたり、点々としているが何か理由があるのか。(委員)

→調査地の地形は険しくもあるので、オレンジで表示している場所以外は調査できていない。もしかしたら、しらみつぶしに調査できたら見つかるかもしれない。(アドバイザー)

- ・ 山の土地の所有は誰になるのか。(委員)

→資料2 西宮市域におけるシロヤシオ分布域で言うと、尾根筋に沿って1点破線が入っているが、これより東側は市が所有している。また、尾根筋より西側・北側は、財産区や一部、民有林があるのではないかと聞いている。シロヤシオの確認エリアについては、財産区が所有している山ではないかと推測している。土地所有に関しては、現在、正式にはお答えいただいている。(事務局)

- ・ 保全を進めるのにあたり、天然記念物に登録するか、加西市のように条例を制定する等の法的な強制力をかけるのが1つの手段であるが、西宮市としては、保全はどうしていくのか。(委員)

→市としては、広範囲であるという点と土地の所有が不明である点があるので、調査が済み次第、見守っていくのか、保全をしながらその情報を発信していくのかは、皆様のご意見をお聞きしながら方向性を決めたい。(事務局)

→天然記念物の指定の場合は、土地所有者からの申請になるので、所有者が動かないと何も進まない。(委員)

- ・ 西宮市は、750mから850mに夏緑樹林帯が存在し、山の多様性を保っている。標高が100m高くなれば、気温が0.6℃下がると言われているので、0.6℃気温が上昇すれば、夏緑樹林帯は照葉樹林帯に構造が変わって、西宮市の生物多様性が下がってしまう。西宮市はそのような状態であるということを指標に活用すべきである。また、そのためにも、モニタリングも必要である。(委員)

- ・ 西宮市において、シロヤシオは、海拔差が750mから850mに自生しており、差が100mしかない。もし0.6℃気温上昇すれば、シロヤシオは絶滅してしまう。(委員)

→その指標になるのが、シロヤシオであるため、重要ではないかと思う。(委員)

- ・ 他には、何が自生してるのか。気温上昇で絶滅の恐れがあるブナ帯の要素に関しては、データとして出してほしい。(委員)

→イヌブナ、ミズナラは確認されていますが、ブナは確認できていない。(アドバイザー)

- ・ 今後の自然調査区域の候補地として検討していきたい。(事務局)

- ・ 自然環境調査において、次はどこを調査するのかという議論が昨年にあったと思うが、今年はどうなのか。(委員)

→平成29年度は、昨年と同様に塩瀬町名塩のため池周辺の範囲を変えながら、水生生物、水生植物を中心とした調査を行っていきたいと考えている。また、もう1箇所は、社家郷山周辺を予定しており、こちらは植生調査のみの予定である。このエリアに関しては、モザイク状の調査となっているので、調査が行われていない場所を調査していく。(事務局)

- ・ 植物は、生態系のベースとなるので、初めに調査するのはわかるが、毎年細かく調査地点を変えて行っているのであれば、他の生物も行う視点を持ってはどうか。(委員)  
→コープの森で、遠藤副部長が調査していただいた情報をもとに、周囲にはどのような種が生息しているのか参考にしたい。また、調査方法についても、今後ご相談させていただきたい。(事務局)
  - ・ 甲山のグリーンエリアでは、ナラ枯れの影響により、3年間で500本近い木を切っているので、カブトムシなどの樹液に集まる昆虫を見かけない。植生をかく乱したことによる、昆虫への影響も考えなければならない。(委員)
  - ・ 以前、県政100年の際に、クスノキをたくさん植えている。そのため、対処しなければいけない木が増えてきており、切る一方になってきていることを踏まえて、これからの調査を考えなければならない。影響が出ているポイントを継続調査することも必要である。(委員)
  - ・ 環境基本計画の見直しの問題でも、温暖化が出ているが、標高750m以上の動物相への温暖化の影響も調査をすることも考えていただきたい。(委員)
  - ・ 動物相の調査地はどこなのか。(委員)  
→広田山、甲山・仁川周辺、名塩ダム周辺で調査を行っている。(アドバイザー)
5. 広田山公園コバノミツバツツジ群落の調査結果と保全再生活動について
- ・ 6ページの試験管理区の植生結果一覧に関して、年度区切りにされているが、調査時期は、1年を通してという意味か、どの時期に行ったのか。(委員)  
→平成24年度と平成25年度に関しては、秋に調査がされている。平成28年度は、3月末に行われた。時期がずれているが、植物が確認される時期ということで、ある一断面で調査している。(事務局)
  - ・ 種数で見ているため、あまり変化が無いように見えるが、被度で出してはどうか。照葉樹は、ほとんど0%になるのではないか。(委員)  
→正確ではないが、コバノミツバツツジに関しては、被度が10%から20%まで回復している。また、照葉樹林は、ほぼ0%になっている。(アドバイザー)  
→6ページの表は、種でカウントしているので、小さな実生でも1とカウントされ、照葉樹林が減っていないように見える。被度で見れば、照葉樹林も1%以下になる。単位など表現の仕方を検討していただきたい。(委員)
6. 第3回・第4回 御前浜公園予定地の自然環境保全のあり方意見交換会について
- ・ 現場発生の砂質土というのは、トイレの工事の際に、上に堆積している土を何センチか掘ると、下から元々の砂である。砂質土と表現したが、御前浜の元々の砂を窪地に戻していることになる。(事務局)  
→トイレ付近で、平らになっている地面の表面は削らないのか。(委員)

→表面は、平らにしなければならぬので削る。また、削った表面の砂も窪地に入れる。  
(事務局)

- ・ チガヤが入っていたと思うが、裸地の状態で置いておくのはいいが、すぐにチガヤが入ってくる。海浜植物を植えるのであれば、チガヤは一回入ると、完全に除去するのは大変なので、早めの対応をした方がよい。(委員)
- ・ 第3回に関しては、現地視察を行い、机上でイメージできない部分についても情報を共有する。第4回目には、事例も踏まえて、イメージを膨らませながら、第5回目で案を作成し、最終的には皆様からご意見いただきたい。(事務局)

#### 7. 生物多様性にしのみや戦略の課題と見直し検討方法について

- ・ 市民の目線からいえば、現在の戦略は、専門的すぎるとされる。例えば、市全域の行動計画の10番目に、「外来種等の生態系に悪影響を与える生物への対応」とあるが、外来種の動物相への影響は知られているが、植物相に関してはあまり知られていない。(委員)
- ・ 市として保全する種の例や外来種の例を、もっと広報紙に載せると市民の理解度は、上がるのではないかと。たとえば、学校で広報すると、子どもだけでなく、親御さんの目にも止まるのではないかと。(委員)

→38の行動計画の内、下線部を引かれている項目については、次回、進捗状況や達成状況を評価し、整理統合した上で、創出・廃止を検討したい。市民にとってよりわかりやすい計画にしたいと考えている。(事務局)

→生物多様性に対する市民意識調査の結果を見ても、生物多様性は知っていても、問題として身近に感じないという回答が多かった。身近に感じながら、生物多様性のありがたみを享受できるような内容を盛り込んでいきたい。(事務局)

- ・ 前計画を策定した時に、認識されていなかったナラ枯れの問題をはじめ、策定時から現在までで、現れた外来種問題やヒアリなど新たな問題の整理は必要であり、その問題に関して、現行の計画が対応できているか、できていないかのチェックは必要である。(委員)
- ・ 自然を活用した保育、小学3年生が自然体験を行うべきであるという設定があるにもかかわらず、地域とつながらず自然体験がおこなわれているなど、地域との接点づくりまで入り込めていない。(委員)
- ・ 甲山センター主催の社家郷山での昆虫採取と標本づくりを行っているが、定員6組に対し、はがきで応募件数60枚もの参加申込があった。家庭での関心は高いが、どういった意味で高いのか。また、家庭でできることと、イベントでしかできないことの関係について気をつけておくべきである。(委員)
- ・ 先ほど、戦略の見直し方針のご説明があったが、前回立てた計画が、現時点でどれだけ進捗していて、何が問題なのかを把握した上で、見直しに持っていくのが本来の順

序だと思う。今回は、見直しの方針が、先に出ているが、順序としてどう考えているのか。(委員)

→今回は、上位計画である新環境計画の見直し方針の関連から提案をさせてもらったため、次回以降には、現戦略の行動計画の進捗に関する資料をお示ししたい。その中で、見直す行動計画や新たな課題に対応して作られる行動計画も検討する。大きな概念としては、数値目標は、検証のしようがない。既存のウォッチング西宮やホームページ中で生物を発見すれば登録していくシステム等で、色々な場面で市民に参画いただき、報告していただいた積み重ねが、生物の多様性を互いに認識していくという方法に変えていけば、身近に市民の方と生物多様性という難しい課題とが結びついていくのではないか。(事務局)

→また、見直し方針案の中で大きなキーワードとしては、「生活シーンごとで見えていく」というのが、現計画にない視点で、身近に生物多様性を意識してもらう狙いがある。現計画を総括した上で、次の新計画を見直して行くのが本来の考え方であるが、今回は、上位計画の方針と新しい視点の部分からの提案として、ご検討いただきたい。(事務局)

- 生態系サービスの強化とあるが、どこでも通用する話で強化してもあまり変わらないとは思いますが、どのように考えているのか。(委員)

→具体的にはまだ検討できていないが、一般の市民レベルにも生態系サービスの効果をわかりやすくすることが必要ではないか、という視点の追加というのが現状の案である。また、西宮市ならではの話なのか、広い意味で一般的な話にしていくかは検討する。(事務局)

→生物多様性そのもの自体がわかりにくい所もあるので、生態系サービスの視点だけ強化するのではなく、全体的な視点の強化をしなければならない。これをきっかけに生き物とのつながり、付き合い方を考えていただき、生態系を守る意識を持つという話の構成であると思う。(委員)

- 市民に見えやすいところで言うと、食べ物と生態系の関係をつなげていくなど、色々な分野とつながるが、全部ひっくるめると温暖化のような大きな話になる。温暖化の問題を引き金に生活の節々に影響を及ぼすという位置づけにするならば、温暖化対策と連動する施策が作れる。本来の循環型社会の考え方で、低炭素と自然共生をバラバラでなく、つなげて考えるところがあるので、キーワードとして入れていくのであれば面白い発想である。是非、環境計画と3つの個別計画を連動させたものにしていくことも検討事項として挙げていただきたい。(委員)
- 環境体験学習は、それぞれの教育委員会・学校単位で異なるので、一貫性がない。地域でやらなければ意味がない。(委員)
- 小学校では、命の大切さを全面に出しているが、私たちが普段誰の命をいただいて生きているのかという視点はない。生物多様性教育という考えも検討していただきたい。

(委員)

- ・ 他の部会とは違って、広範囲に及んでいるため、優先課題が何なのかがわかりにくい。元々の基本計画からどのように変わって、次はどのように移り変わっていくのかが、体系的にわかるようになれば、市民の方にも理解が得られる。(委員)
  - ・ 西宮に本社を置く企業の中で、「西宮のために何ができるのか」という想いを持っている企業も存在すると思う。地域全体で、何かしらのファンドに出資したり、社員のボランティア活動の場を提供するなどの企業とまちの生物多様性との接点づくりの仕組みを作るべきである。(委員)
  - ・ 西宮市の企業の中にも、「やりたいのに、やり方がわからない」という企業も存在するかもしれないので、一度企業の動向を調査してみてもどうか。(委員)
  - ・ 市民参加を有効に行っていくことはいいが、色々な手法があるので、柔軟に対応していただきたい。いくつかパターンを決めて、モニタリングをして比較する事はいいが、それぞれの地域の問題意識があるので、画一的に行わないようにする。市民参加で色々なものを見つけられるような仕掛けがほしい。(委員)
  - ・ 生態系サービスの視点を行動計画に組み込んでいくのは難しいため、工夫が必要である。(委員)
  - ・ 現戦略の行動計画に、生物多様性に配慮した開発事業の実施とあるが、今津浜が無くなるなど話を聞く中で、実際、環境部局や公園緑地課はどのように関わっているのかわからない。建設局が認めれば、工事が進んでいくのか。(委員)
- 要望・要請事項としては、生物多様性に配慮するために、緑地化の保全等は要望している。(事務局)
- 実際に、事業を持っているわけではないので、環境基準を下げる等をしないと、進めていくことはできない。(委員)
- ・ 事務局には、以上の意見をもとに、案を出していただきながら、前回の評価もしていただきたい。(委員)

## 8. 連絡事項

- ・ 次回の部会は、11月頃と予定している。早々に日程調整のご連絡差し上げる。